

巻 頭 言

人間福祉学部長 城 戸 喜 子

田園調布学園大学は2002年4月に定員190名の人間福祉学部として出発した。調布学園自体は77年という歴史を持ち、短期大学としても36年の伝統がある。その中で1998年には人間福祉学科が設置された。今般、その人間福祉学科を4年制の人間福祉学部として拡充したのは時代の要請に応え、また学園建学の精神をよりよく実現するためである。

すなわち少子高齢化が進行する日本においては、総ての人が普通に生活できるように自立を助け共に生きる社会を創造する必要がある。一人一人の個人の尊厳を尊重し、援助される人々と対等で自然な関係を保ちながら援助出来る福祉の人材、地域社会に貢献出来る心豊かな人材を育成することが社会の側から求められている。

また高い志を持って福祉の世界で対人援助に直接携わり、更により柔軟で強靱な福祉のシステムを築くことに貢献出来るような、広い視野に立ち人間としての幅と自分で考える力を持ち、積極的に行動する生き生きした若者を育てることこそ、本学園の建学の精神を実現することである。

そのため学生には、ゆとりと幅と深みのあるカリキュラムおよび学園生活が必要であり、4年という時間の中でじっくり学び、自己と自分を取り巻く環境すなわち日本社会と世界、また特に福祉の領域について考察し、将来の方向性を探って欲しいと願っている。

他方、教員は4名の助手を含め29名が今年度就任された。各人ともそれぞれの分野で優れた業績を上げ人間的にも素晴らしい方々であるが、教員として、4年制の人間福祉学部開設の意義を噛みしめ学生との生活に心を砕く一方、今までの研究蓄積を基盤に各専門の領域で一層の研鑽に励むことが必要である。学問は常に進歩し続け、また各領域の境界や区分は時代と共に変化する。新しい社会事象には新たに対応する研究や共同研究も必要になる。

大学教育は研究に支えられているのはいうまでもなく、その意味で今回、人間福祉学部の紀要として『人間福祉研究』が刊行され、9本もの論文が寄稿されたのはまことに慶ばしい限りである。内容は社会保険・福祉の先駆的思想に関する論功、憲法と福祉との関連、精神保健、高齢者福祉、児童福祉、地域福祉情報システムと、総括的なテーマから始まり、制度の根拠法論、各領域別論考にわたり多彩で、各教員の研究への取り組みと紀要への参加の熱意が伝わって来る。今後ともこうした雰囲気大切にし学会有数の研究誌として成長することを期待したい。